宮崎 昌宗 議員

スマートPAを検討すべきでは

坪根町長 じっくり検討しながら模索したい

問 大池公園の開発を進めているが、大池本来の水利目的は守られるのか。

岡崎開発交流推進課長 本来の目的は農業用のため池であり、水利に影響が出ないように地元水利組合と十分な協議を重ねたい。

問 開発は地元関係者の同意が大前提だ。仮に計画案が議会を通っても、決まったこととして押し通さないでほしいが。

坪根町長 議会が決めたからというような責任を押し付けるつもりはない。大池公園の周辺はゴミ捨て場になっている。ゴミの町にならないため、町の玄関口として整備する大命題を抱えて取り組んでいる。

問 計画案では、池の堤体に高木を植栽するとあるが、農林水産省の堤体の構成及び定義には、植栽は避けるべきとある。おかしいのでは。

岡崎課長 堤体に覆土をして、その部分に植栽を考えている。堤体の本体部分に対する影響は無いものと考えている。

問 専門的な見地から言っているのか。堤体の耐震補強が必要なのでは。東九州自動車道は災害時における輸送路でもある。植栽が原因で堤体が崩壊すれば通行止めになる。再検討すべきでは。

坪根町長 大池の堤体は60年近く前に決壊して補強している。

問 大池西側の保健保安林の大部分を伐採し造成する計画だが、町広報の事業説明である森林浴をどこで楽しむというのか。

岡崎課長 ある程度のエリアは残されているので、保健保安林の機能は十分確保できると考えている。

問 西側の高速道路との連結や保安林解除を伴う開発は、関係機関との協議も多く困難では。実証実験の段階ではあるが、スマートPA（パーキングエリア）※を検討すべきでは。

岡崎課長 検討は行っていない。相手のある西側の開発が遅れるのは仕方ないと思う。

問 スマートPAならば上下線の対策もでき、大平楽や周辺施設、近隣自治体にもメリットがあり、開発費も大幅に抑えられる。実現でき、全国に広まれば、日本を変えるシステムとなり、今後増加する公共施設の整備や維持費も抑えられるのでは。

坪根町長 スマートPAというものをじっくり検討しながら、よりいい道を、今後、模索していきたい。

※スマートPA
ETCのシステムを使い、高速道路本線を降りても一定の時間内なら、再度本線に戻れる仕組み。既存の施設がPAとして活用できる利点がある。首都高速道路(株)で実証実験を行っていた。

上毛パーキング附近

修学旅行を海外へ

問 海外交流体験事業は昨年度の団員を含む59名分の予算を組み、参加料も無料。一方で学校の修学旅行は積み立てを行い有料となっている。バランス的にどうなのか。行く場所は別として修学旅行という形で取り組んでは。

坪根町長 平成27年度は行くのが中止となったが、タイの方が日本に来たので、平成28年度は本町が訪問して、初めてこの事業が完結すると考えている。その動向を見守って検討していきたい。交流自体に賛否両論あるので、一度、タイとの交流事業を完結させて次を考えたい。

町民満足度の向上は

問 平成28年度の主要施策に町民満足度の向上とあるがどう取り組むのか。

坪根町長 永遠のテーマだと考える。職員が一丸となって、九州一町民に満足をいただくため、挑戦する熱意や情熱の一言に尽きると考えている。

問 大きな開発も大事だが、町民の日々の生活や暮らしの充実が満足度の向上では。

坪根町長 開発だけが満足度を上げるとは思っていない。子どもたちの作文から読み取れる上毛町の魅力は、気候・自然・文化・食事を多く挙げている。このことは観光立国の四要素でもあり、強化していきたい。平成28年度はこれから10年の総合計画を考えていく。

岩花 寛之 議員

当町の広報施策は十分か

福田企画情報課長 情報提供の内容・方法を改善する

問 東九州自動車道開通一周年を迎え現状の交通量・利用状況は。

永野建設課長 上毛SICは1日当たり590台、豊前～中津の交通量は5108台で大分方面の利用率は当初予測の204.3%増となっている。

問 SICを開設した他の自治体同様、ETC導入補助金を検討してはどうか。

永野課長 4月24日の全線開通に伴い、そう言った声が上がれば町長の判断を仰いで考えたい。

問 全線開通は一大イベントであると思うが宣伝・広報・プロモーションは十分か。

岡崎開発交流推進課長 宮崎から別府までの有人SA・PAにチラシを設置しており、4月の開通時期に合わせて広島から壇ノ浦までの区間に設置準備を行っている。

問 町内の施設が観光の目的地となり得るような対策や広報はできているか。

岡崎課長 情報発信が重要でありホームページの充実を図り、情報提供の内容・方法などを改善する必要があると考えている。

問 コンテナハウスが設置される道の駅に対しての広告宣伝費は。

福田企画情報課長 目に見えた予算はないが、町のホームページ、その他広報誌などの活用を考えている。

問 予算は無くとも大平楽の「ぶらり通信」のように企業協賛をもらうなどの工夫ができるのでは。

坪根町長 行政が運営しているという考えで道の駅にも甘えがあったかもしれない。駅長にも広報予算の捻出を提案している。

多面的機能支払交付金の活用

問 法面の草刈り、未舗装の農道改修など、多面的機能支払交付金の十分な活用ができるよう、指導・広報は行っているか。

尾崎産業振興課長 町内すべての自治会に説明会を開催し、現在希望した地区29組織がこの事業に取り組んでいる。

問 農地の維持も大切だが地域コミュニティの活性化を踏まえた啓蒙活動はできないか。

尾崎課長 地域資源の保全、管理はもちろん、地域コミュニティの維持、再生、活性化につなげる指導、助言が出来るよう、情報収集に努めたい。

町内の人口分布と世代別人口

問 旧小学校単位の世代別人口は。

佐矢野住民課長 平成28年1月末の人口は次の通りである。

旧校区	14歳以下	15~39歳	40~64歳	65~74歳	75歳以上	計	65歳~高齢化率
南吉富校区	360人	587人	705人	356人	332人	2340人	29.4%
西吉富校区	275人	411人	564人	284人	299人	1833人	31.8%
東上校区	20人	43人	96人	36人	96人	291人	45.4%
西友枝校区	22人	81人	105人	59人	105人	372人	44.1%
友枝校区	140人	233人	330人	158人	241人	1102人	36.2%
唐原校区	200人	421人	619人	268人	322人	1830人	32.2%
有野地区	5人	11人	22人	22人	22人	82人	53.7%
合計	1022人	1787人	2441人	1183人	1417人	7850人	33.1%

問 町全体の高齢化率33%だが、過疎地区は40%を超えている。地域の特性に合った定住促進事業を行えないか。

福田課長 地方創生の人口ビジョンで上毛町は2040年に人口1万人を目標にしている。コモンパーク上毛彩葉だけではなく移住者支援や、子育て支援を充実させたい。

問 世代別人口を見ると40歳から60歳の人口が少ない。老後は上毛町が住みやすいと町民一人ひとりが自信を持って広告塔になれるような施策が必要なのでは。

福田課長 Uターン、Iターン者の移住奨励金、引越し補助、空き家購入補助など移住推進に力を入れていく。